

会議名称	平成30年度第2回平塚市スポーツ推進審議会
日時	平成30年(2018年)12月26日(水) 10時00分から11時55分まで
会場	平塚市教育会館 中会議室
委員数	14名
出席者 委員	12名 陶山正明、萩裕美子、田中國義、杉山鎮夫、首藤幸子、鈴木登喜雄、 守泉光江、落合浩一、畔柳豪、鈴木喜明、平松廣幸、熊沢裕子
出席者 事務局	5名 吉野教育長、高橋社会教育部長、石塚スポーツ課長、市川課長代理、 植手主査

1 諮問

(1) 教育長からスポーツ推進審議会会長へ平塚市スポーツ推進計画の中間年による見直しについて諮問がなされた。

2 議題

(1) 平塚市スポーツ推進計画について

ア 平塚市スポーツ推進計画の中間見直しについて

【事務局】

計画期間10年の平塚市スポーツ推進計画は策定から5年が経過した。中間年では状況に応じて見直しの実施をすることとしており、社会情勢の変化に対応するため、見直しを実施する。2020年に東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることに伴い、平塚市でもリトアニア共和国の事前キャンプの実施が決定していることなど、スポーツ環境の変化は大きい。

国では、スポーツ庁が設立され、第2期スポーツ基本計画が策定された。県ではスポーツ局が設置され、神奈川県スポーツ推進計画が策定された。

こうした社会情勢の変化に対応するため、また、平塚市のスポーツ推進計画に位置付けられた個別事業を整理するため、中間年による見直しを実施する。

見直し方法について、4つの基本目標を引き続き推進するが、平成30年4月に実施した「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」(以下、市民アンケート)の集計結果を分析し、個別事業の進捗状況や廃止等を踏まえ、見直しや新規事業を検討する。また、国の第2期スポーツ基本計画や神奈川県スポーツ基本計画を参酌する。

基本目標1の生涯スポーツの推進では、成人のスポーツについて、スポーツ実施率は国や県と比較して高く、未実施率は低い。ただし、スポーツ実施率55.4%は現行

計画指標の平成30年度の目標値、56.1%には及ばない。スポーツ未実施率が前回調査と比較して高くなっているため、運動をする人とならない人の二極化の傾向が見られる。中間年による見直しでは、日常的運動習慣への啓発事業として、スポーツ参加人口の拡大を目指し、ウォーキングイベントを検討する。平成30年度の市民アンケートの結果でも、ウォーキングは行いたい運動として、各世代からの要望が高い。新規に検討するウォーキング事業については、レクリエーション的要素を取り入れた。

スポーツボランティア登録制度については、登録制度は見直し、イベント毎のボランティアの募集を推進する。

子どものスポーツについて、青少年交流体験事業に位置付けられていた青少年課の事業は廃止になっているので、新たに平塚市体育協会が実施する花巻市のキッズアスリートとの交流事業を位置付けたい。

高齢者のスポーツについて、介護予防のための運動の習慣化のための事業としても、計画策定当初に位置付けられていた事業が廃止されたことに伴い、ウォーキングイベントを位置付けたい。

障がい者スポーツについて、国の調査の結果、障がい者スポーツ実施率は低くなっている。平成30年度の市民アンケートの結果でも障がい者スポーツの大会等への参加率は90%以上が参加したことがないと回答している。そのため、障がい者スポーツの振興を目指し、ひらつかパラスポーツフェスタを開催する。イベント開催をきっかけとして、障がい者スポーツの振興を図りたい。

基本目標2の地域スポーツの推進では、地域スポーツの底辺拡大として、スポーツ普及員認定制度を検討したい。

基本目標3のトップスポーツの推進では、トップスポーツの活用ということで、平塚市ではリトアニア共和国と事前キャンプ実施の協定を締結しており、事前キャンプの他にもテストキャンプの実施等で、同国のトップアスリートと直接触れ合う機会がある。個別事業の新たな位置付けとして、平塚市オリンピック・パラリンピック推進課の事前キャンプ実施に伴うリトアニア共和国のトップアスリートとの交流を加えたい。

基本目標4のスポーツを楽しむ環境づくりでは、スポーツ用具の有効活用を新たに個別事業として位置付ける。未利用地や県のスポーツ施設、また、民間のスポーツ施設の借用については、借用等の新規の施設整備については難しいことから、見直しをして、スポーツをする場所として利用可能な民間スポーツ施設等の情報把握を行い、市民に情報提供できるようにする。

また、スポーツ情報の提供の充実ということで、インターネットによる情報発信の充実は、スポーツ実施率の向上に有効的な手段と考える。平塚市では「ひらつかスポーツナビ」があるが、認知度は低い。今後、スポーツ情報を得られるサイトとして身

近になるようにして、内容の充実等を行っていききたい。

スポーツ推進計画の指標については、計画策定時に指標を設定したが、指標としている事業が廃止になり、目標数値が算出できない指標がある。また、イベント参加者数を指標としている場合、天候等により参加者数が大幅に変動するので、そのような指標は削減したいと考えているが、御意見を伺いたい。

【会長】

事務局からスポーツ推進計画の見直し（案）を御説明いただいた。委員の方の御意見はいかがか。

【委員】

総体的にまとまっていると考える。特に平成24年度に実施した市民アンケートでも要望があったウォーキングイベントを検討することは良いと考える。民間団体と行政が協働して実施できれば、なお良い。

また、中学校等の運動部活動の推進は今後、重要である。

【委員】

中学校部活動の推進のためには、地域スポーツ推進や総合型地域スポーツクラブの発展など、連携が必要と考える。

【委員】

地域のスポーツを支える人員も高齢化や固定化が進み、地域スポーツの振興が難しい状況にある。

【副会長】

ウォーキングイベントを検討するとのことだが、イベント事体は一過性のものなので、スポーツを習慣化させる仕組みが重要。例えば、町に歩いた距離がわかる記載をするなど、市民に情報提供をして、スポーツの実施に仕向けていくことを検討する必要がある。

また、中学校部活動や地域スポーツなどは関連性があるので、地域のスポーツを支える総合型地域スポーツクラブ、あるいは地域クラブのような、地域の核となる組織が必要である。その点について、見直し後の計画の中に記載できれば、なお良いと考える。

また、指標について、目標値は定めておいた方が良い。

【会長】

委員の意見を踏まえ、見直し後の計画に反映していただきたい。

(2) 平成31年度スポーツ課予算について

ア 補助金交付について

【事務局】

地方公共団体がスポーツ団体に対して補助金を交付しようとする場合は、教育委員会

がスポーツ推進審議会等、その他の合議制の機関の意見を聴かなければならない。それに基づき、審議会へ意見を伺うもの。補助金については、団体、大会、事業に対して交付している。団体補助は平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚レクリエーション連盟が対象。大会補助は、平塚市で行われる全国大会規模の大会が補助対象。事業補助はベルマーレスポーツクラブの指導者派遣事業、市内巡回事業・教室実施事業、スポーツ体験実施事業、交流大会実施事業が補助対象。サッカー文化の振興によるまちづくり事業についても、昨年と同様に予算編成を行っている。

【会長】

予算について、委員の御意見はいかがか。

【会長】

補助金対象等も昨年並みとなっているので、委員には御理解いただきたい。

(3) 平成30年度スポーツ課事業について

ア 市民総合体育大会結果報告について

【事務局】

今年度も委員の皆様には視察を行っていただいた。

平成30年度の結果は旭北が優勝。市総体の結果一覧をニュースポーツ大会も含めて資料に添付しているので御確認いただきたい。

【会長】

委員の方の御意見はいかがか。

【委員】

地区の中で、参加選手がおらず、出場できない競技もある。

【会長】

地区のスポーツ振興という意味では、今後の課題である。

3 その他

【事務局】

2021年に神奈川県でねんりんピックが開催され、スポーツ吹き矢が平塚市で開催される等、スポーツ情報の提供を事務局から行った。

4 閉会